

【令和3年度地域福祉活動計画実績報告】

資料4

| 連番 | 地区名 | 地域福祉活動計画 | | | | 令和3年度検討会 | 今後の動き | 自治会数 | |
|----|-----|-----------------------------|---|---|---|---|---|--|-------|
| | | 基本理念 | 基本目標 | 基本目標細目 | 取り組んでいること | | | | 地区の課題 |
| 1 | 巻 | つながり支えあい、助けあって解決をめざす巻地区 | ①だれ一人見逃さない、安心・安全な見守りづくり ②だれもが気軽に集える場づくり ③地域の福祉を担う人材づくり | ①新しい繋がりを取り入れた地域の見守りしくみづくり ①声をかけあい、困ったときに助けてと言える地域 ②誰もが集える居場所を広げる ③公共施設や空き家の友好的な活用 ④人材育成・ボランティア発掘 ⑤福祉協力員の組織的な育成 ⑥地域と繋がる児童・生徒の育成のため学校と連携 | ①見守りシートの全戸配布など、困りごとの声を上げやすい地区ができている ②班で災害時の援護活動名簿を作成している地区がある ③防災・清掃訓練、祭りなどで顔の見える関係 | ①ウイルス禍を考慮した新たな見守りシステム ②人材育成 ③自分の地域に興味を持ってもらう工夫 ④多世代交流の機会 | ○令和3年11月19日(金) 巻ふれあい福祉センターで実施 22人 ○意見・内容等 ・座談会参加者は、検討会参加メンバー+自治会長26名で ・安心安全な見守りづくりをテーマに、具体的な取り組みを検討する。 | 26 | |
| 2 | 漆山 | ともに助けあい、支えあい、交流を大切にす漆山 | ①いつでもだれでも集まれる交流の場づくり ②住民の防災意識と、災害時の地域力を高めます ③次世代を育て、地域を支える人づくりまちづくり | ①交流の機会を増やす ①歩いていける茶の間をつくり、孤立を防ぐ ②自治会と茶の間のつながり ③災害時に備えた企業や施設などとの連携 ④訓練を実施し災害への備えを共有 ⑤「支えあいシート」を活用したつながり ⑥地域を支える人材の育成 ⑦支えあい助けあい活動のしくみづくり ⑧若い世代への継承 | ①全世帯に「支えあいシート」を配布し、見守り活動に取り組み ②健康づくり活動が盛ん ③茶の間設置を検討 ④企業団地と連携し、災害時避難を検討 | ①地域の集まりへの参加者の固定化 ②実効性のある災害訓練と個人情報保護の相関 ③人材育成 | ○基本目標1については、令和3年度に動く茶の間開設を働きかけた結果、いくつか立ち上がった。概ね達成できている。集まれる状況になった段階で「動く茶の間」について報告したい。 ○基本目標2については、コミ協を中心にこれからも検討していきたい。 ○基本目標3については、難しい課題でもある。 ○座談会の開催は難しいので、地域の方の意見を聞く機会としてアンケート実施をする前提で考えたい。 | 22 | |
| 3 | 峰岡 | だれもが安心して暮らし続けられる峰岡地区 | ①小地域での支えあいを大切にする峰岡地区 ②だれもが安心・安全に生活できる峰岡地区 ③世代を超え、すべての住民がつながる峰岡地区 | ①サロンづくりに努める ①支えあ関係をつくるための情報共有 ②人材育成 ③見守り活動・パトロールの強化 ④だれひとり見逃さない仕組みづくり ⑤防災意識を高める ⑥多世代交流の機会をつくる ⑦自治会同士がつながる | ①地域福祉会の行事や講演会が生活意識の向上に役立っている ②草刈りや清掃などのボランティア活動への地域住民の参加 ③高齢者世帯を優先的に除雪 ④見守り訪問活動を民生委員や地域住民が実施 | ①地域の茶の間への送迎 ②人材育成 ③若い世代の地域行事への参入 ④地域福祉の中心となる組織づくりや協力体制構築 | ○座談会検討メンバー・自治会長・老人会長・コミ協福祉部会・民生委員を対象にアンケートを実施(4/15頃配布→4/25頃回収) ○アンケート集計後、回答内容を共有しながら座談会に向けた打ち合わせ予定 ○アンケート内容は、回覧板等で地域内に発信する | 20 | |
| 4 | 松野尾 | みんなであつていこうよわがまち松野尾 | ①だれも一人ぼっちにしない地域づくり ②子どもが安心して元気に活動する地域づくり ③すべての住民がつながる地域づくり | ①見守り活動の推進 ①茶の間や地域行事への参加 ②班単位による安否確認や避難誘導の支援計画 ③家庭・地域・学校の連携による地域ぐるみの活動 ④若い世代を中心とした子ども対象事業の実施 ⑤コミセン前広場を子どものために有効活用 ⑥コミ協事業を通じて地域住民の交流を図る ⑦地域ボランティアの発掘と育成 ⑧広報誌による地域福祉活動計画の周知 | ①見守り訪問活動を民生委員や地域住民が実施 ②災害時に班単位で安否確認 ③コミ協行事(盆踊り・文化祭・防災訓練など)が つながりの機会となっている | ①若い世代との交流機会が少ない ②茶の間や健康教室への新たな参加者 ③空き家の増加 | ○令和3年11月26日(金) 松野尾地域コミュニティセンターで実施 19人 ○意見・内容等 ・コミ協の役員、子ども部会の部員にも座談会に出席してほしい ・特にテーマを絞ることなく、「だれも一人ぼっちにしない、子どもが安心して元気に活動する、すべての住民がつながる地域づくり」について、目標に近づき手法を討論 | 3 | |
| 5 | 角田 | 自然豊かな三浜地区が協力を、助けあうまちづくり | ①支えあい助けあうまちづくり ②安心・安全で暮らしやすい地域づくり ③次世代を担う人づくりで地域カアップ | ①助けあい活動の推進 ①移送サービスの研究 ②居場所づくりの推進 ③津波避難計画などの周知 ④防災訓練の充実 ⑤集まりごとに参加しやすい体制づくり ⑥男性も活躍できる場づくり ⑦若い世代への継承 ⑧移住モデル地区のPR | ①地域の見守り隊があり、気になる人は自治会へ連絡するしくみがある ②越前浜地区が移住モデル地区に指定されている。 ③コミセンが地域の居場所になっている。 | ①移動販売の充実や公共交通 ②高齢者が多く、行事などに参加困難な地区がある ③高齢者の居場所が不足 ④集まりごとに若い人の参加が少ない | ○令和3年11月20日(土) 角田地区コミュニティセンターで実施 20人 ○意見・内容等 ・自治会・民生委員・老人クラブ・消防団などに声がけし、各団体・自治会の代表出席により、25名程度参加で座談会を実施してはどうか ・若い世代にも座談会に参加してもらうための誘い方 ・今年度の話し合いテーマは「安心・安全で暮らしやすい地域づくり」 | 3 | |
| 6 | 岩室 | みんなであつながら福祉のまちいわむろ | ①絆を大切にする地域づくり ②集いの中で広げよう、地域のつながり ③地域を担う人財づくり ④だれひとり見逃さない、孤立させない地域づくり | ①向こう三軒両隣のつながりを継続・強化 ①助けてと言ひ合える地域 ②地域の茶の間を活かした活動 ③多世代がつながる交流機会 ④地域活動参加者が増えるきっかけづくり ⑤地域を支える人財を増やす ⑥気づき、支えあ意識づくりの醸成 ⑦困りごとをキャッチする見守り活動のしくみづくり ⑧災害発生時ひとりも見逃さない具体的な対策 ⑨困ったときに相談できる身近な窓口を検討 | ①「お互いさま」の精神が残っている ②サロン・茶の間が多く健康寿命延伸の機会となっている ③茶の間などが地域の困りごとの気づきの場所として機能している | ①若者や子どもを、世代間をつなぐ必要 ②茶の間の参加者固定 ③移住者の孤立 | 44 | | |
| 7 | 西川 | 支えあおうよ！みんなの暮らし、広げようよ！助けあいの輪 | ①助けあいの心を育み、住民同士のつながりを大切にす西川 ②だれもが安心・安全に暮らせる西川 ③地域を担う人材を育てる西川 | ①困ったときに助けてと言ひやすい地域づくり ①ボラ活動・地域活動・居場所づくりを通じた住民同士が つながる機会づくり ②障がい者や子どもたちがふれあう機会 ③見守り活動をしくみとして広める ④要支援者や社会的弱者の把握に努め、平時から安否確認できる体制の確立 ⑤防災意識を高める啓蒙啓発活動 ⑥具体的な避難訓練 ⑦担い手育成 ⑧シニアや男性が地域で活躍できる環境づくり | ①自主防災組織が立ち上がった ②茶の間やサロンが充実 ③見守り訪問活動を民生委員や地域住民が実施 | ①茶の間のボランティアの高齢化 ②ボランティアの育成 ③防災訓練の新たな参加者を集める工夫 | ○令和3年12月13日(月) 西川社会福祉センターで実施 17人 ○意見・内容等 ・自治会代表者と各団体代表者に座談会に出席してもらう ・地域福祉活動計画を知ってもらう ・地域でできていることを事例に示して、ボランティアの育成等について話し合いの場を設ける ・自治会長交替直後のタイミング(2月または3月)が良い | ○この時期、会長が交代している自治会・町内会がかなりある。 ○コロナ禍でもあり、集会形式である人数も多くなるので、アンケート形式で意見を聞く。(自治会・町内会、各団体宛てに) ○4月中にアンケート案を検討、5月1日付で送付、6月中に回収し、意見を取りまとめる。 | 58 |
| 8 | 湯東 | だれもが安心して暮らせる湯東、支えあって羽ばたこう | ①地域のつながりと共生の心を大切にす湯東 ②だれもが安心・安全に暮らせる地域づくり | ①サロンの充実 ①多世代交流の集いの場を通じて多様性の理解 ②地域活動ボランティアの育成 ③子育て支援・環境づくり ④防災意識の向上、自主防災組織の機能 ⑤身近に相談できる地域の関係・環境づくり | ①地域の生活支援を行う住民グループができ、困りごとに対応している ②要支援者支援を考えた防災訓練 ③茶の間などが地域の困りごとの気づきの場所として機能している | ①ボランティア育成・有償ボランティア組織化 ②見守り・声がけの体制整備、声を上げやすい環境づくり ③他人の困りごとを気遣う風を広げる | ○令和3年12月9日(木) 湯東地域コミュニティセンターで実施 21人 ○意見・内容等 ・見守りに関するしくみづくり ・活動の担い手不足・人材育成 ・民生委員や自治会長との連携が大事 ・自治会中心の地域づくり | ○自治会単位ごとに座談会実施。自治会長・老人会会長・民生委員が参集中心メンバー。すでに生活支援に取り組んでいる自治会は座談会行わない。 | 15 |
| 9 | 中之口 | みんなであつて、つながりお互いさまで助けあう地域 | ①声かけで安心して暮らせる地域づくり ②地域をささえる人材育成 | ①相談しやすい・声をあげやすい地域づくり ①多世代交流を通じた健康維持の意識改革 ②顔の見えるネットワークづくり ③コミセンを軸とした地域を支える人材育成 ④自主防災組織のシステムづくり ⑤子どもたちの助けあいの心を育む | ①茶の間「呼びこい車」が充実し、交流や気づきの場になっている ②サロン・茶の間が健康寿命延伸の機会となっている ③見守り訪問活動を民生委員や地域住民が実施 ④防災無線を活用した小学生への見守り | ①移動サービス・交通手段の充実 ②次世代リーダー・ボランティアの育成 ③茶の間等へ参加しない人への働きかけ ④困りごとの声を上げやすい関係づくり | ○令和3年12月7日(火) 中之口地区コミュニティセンターで実施 20人 ○意見・内容等 ・各地区の自治会長・老人会代表者から参加してもらい ・「困ったときに声をあげやすい地域づくり」をメインテーマに座談会実施 | ○アンケート実施。 自治会長・老人会会長に配布、記入を依頼するが、3月・4月に行われる役員会、総会の場にてアンケート実施の関する説明と依頼を行う予定 | 27 |